

## 第3章 利用者アンケート調査

### 1. 調査の概要

#### (1) 調査の目的

本調査は、「名張市生活困窮者自立促進支援モデル事業運営推進協議会」の基礎資料として、名張市における生活困窮者の生活実態、制度利用ニーズ等を把握し、今後生活困窮者自立支援法施行後に必要となる制度・施策を検討することを目的に実施したものである。

#### (2) 調査の方法

調査票の作成にあたっては、「名張市生活困窮者自立促進支援モデル事業運営推進協議会」によって調査内容、手法について討議を行った。調査票案を作成した段階で、なばり暮らしあんしんセンター（以下、当センター）利用者を対象に調査を実施した。

本調査では、名張市における生活困窮者の生活実態・ニーズを把握するために、当センター利用者に対し、担当職員が1票ずつ聞き取りながら回答を求め、個々の利用者のより詳細なニーズの把握に努めた。

#### (3) 調査項目

- ・就労状況に関する調査
- ・経済状況に関する調査
- ・社会関係に関する調査
- ・健康状態に関する調査
- ・事業利用に関する調査

#### (4) 調査設計

- ・調査主体：名張市生活困窮者自立促進支援モデル事業運営推進協議会
- ・調査地域：名張市全域
- ・調査対象：当センター利用申込書に署名している利用者
- ・調査方法：面接調査法
- ・調査期間：平成26年9月16日～10月31日

## (5) 回収結果

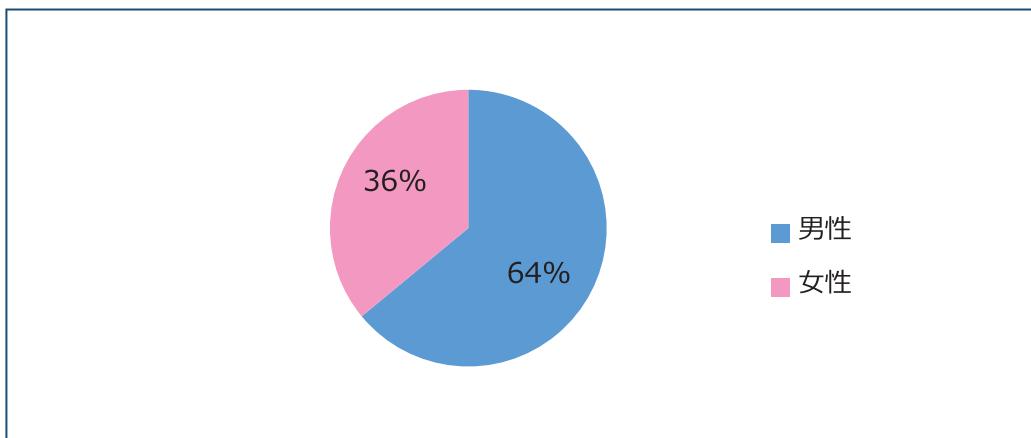
アンケート調査票 50 (回収率 100%)

### 2. 調査分析結果

#### (1) 調査対象者の概要

##### ア. 性別区分

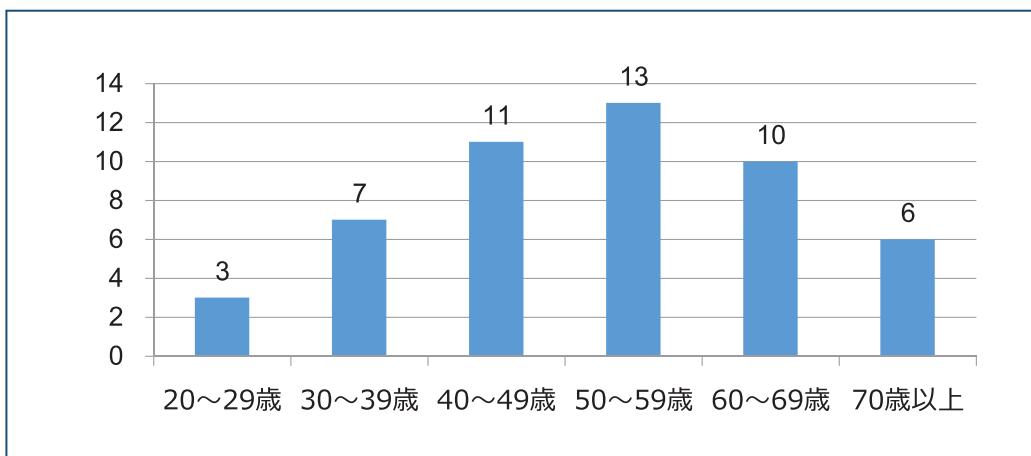
図表4.3 対象者の性別区分



当センターの利用者の性別区分を確認すると、男性が 64%、女性が 36% となっている。

##### イ. 年齢区分

図表4.4 対象者の年齢区分



年齢区分については、「50～59 歳」が 13 人と最も多く、以下「40～49 歳」11 人、「60～69 歳」10 人、「30～39 歳」7 人と続いている。

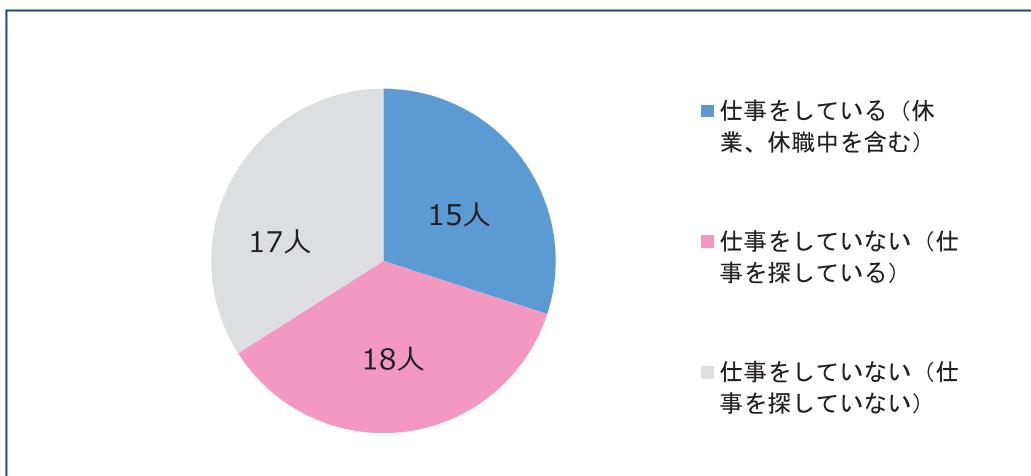
なお、利用者の年齢を世帯別にみると、50 歳代以上は男性単身世帯が比較的多く、若年層では母子世帯の母が多いと思われる。

## (2) 就労状況に関する調査

### ア. 現在の就業状況

問1. あなたの仕事についておたずねします。現在、収入のともなう仕事をしていますか。あてはまるものに1つ○をつけてください。

図表4 5 対象者の就業状況



「1.仕事をしている（休業、休職中を含む。）」人は、15人（30%）であった。また、「仕事をしていない」人は35人であり、そのうち「2.仕事をしていない（仕事を探している）」人が18人（36%）、「3.仕事をしていない（仕事を探していない。または学生である）」人が17人（34%）であった。

### イ. 仕事をしていない理由

問1-2. 現在仕事をしていない理由はどのようなものですか。最もあてはまるものに1つ○をつけてください。（記入後、問1-3へ進んでください）

図表4 6 仕事をしていない理由

	人数	割合
仕事をしたかったけれど、職がなかった。	10	29%
仕事をしたかったけれども、できなかつた（家族の介護等）	7	20%
仕事をする必要がなかつた	3	8%
その他	15	43%
合 計	35	100%

仕事をしていない理由は、「3.仕事をしたかったけれど、職がなかった」が10人(29%)で最も多く、次いで「4.仕事をしたかったけれども、できなかつた」が7人(20%)であった。

#### ○自由回答

\* その他の具体的な内容。

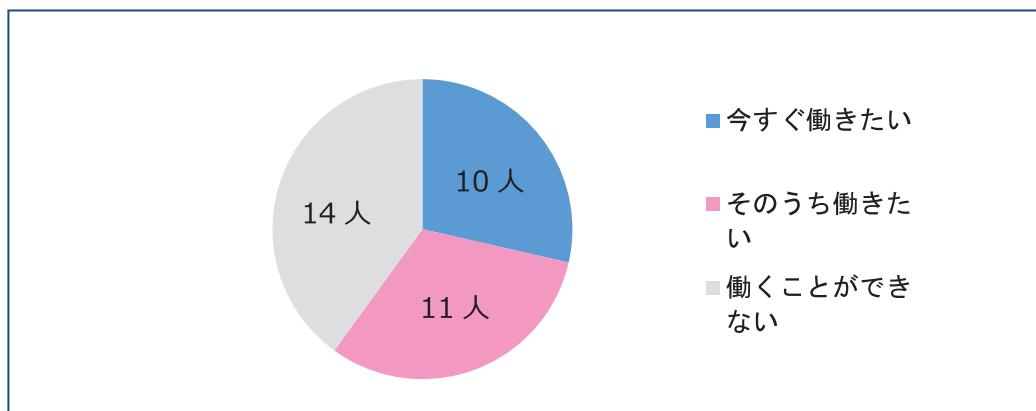
- ・年(年齢)と健康。
- ・高齢のため。
- ・仕事はしたいと思っている。「理由」は一言では言い表せない。
- ・人間関係が上手に出来ない。
- ・体調が悪い。
- ・仕事が出来る状態ではない。
- ・仕事をしてみようという気持ちになれなかつた。履歴書の職歴が気になって前向きになれない。
- ・術後の療養のため。

自由回答では、「健康」、「体調が悪い」、「術後の療養」等の健康に関する回答と「年(年齢)」、「高齢のため」といった年齢に関する回答が多いことが分かる。

#### ウ. 今働きたいと思っているか

問1-3. あなたは今働きたいと思っていますか。

図表4.7 対象者が働きたいと思っている割合

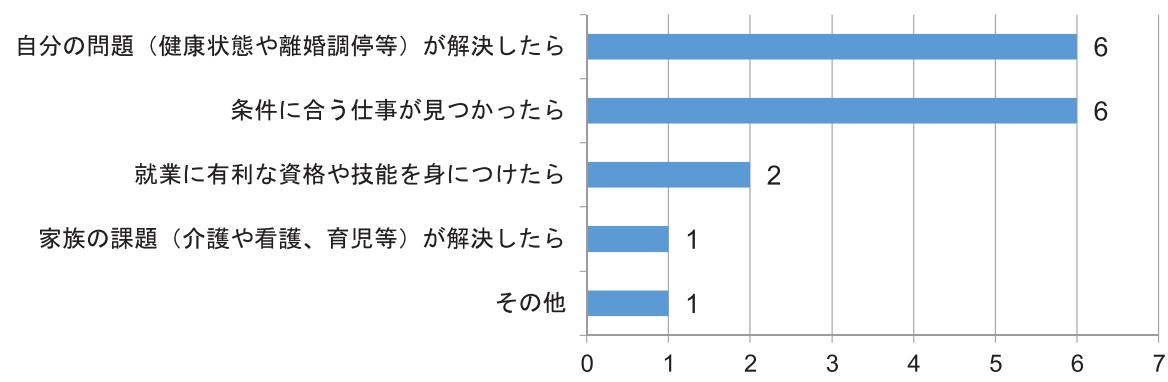


「1.今すぐ働きたい」と「2.そのうち働きたい」と思っている人が21人(60%)となっている。「3.働くことができない」と思っている人は14人(40%)となっている。

## エ. どのような状況になれば働きたいと思うか

問1-4. そのうち働きたいと思っている方におたずねします。どのような状況になれば働きたいと思いますか。主なものを2つまで選んでください。(記入後、問2へ進んでください)

図表4.8 対象者の働く条件

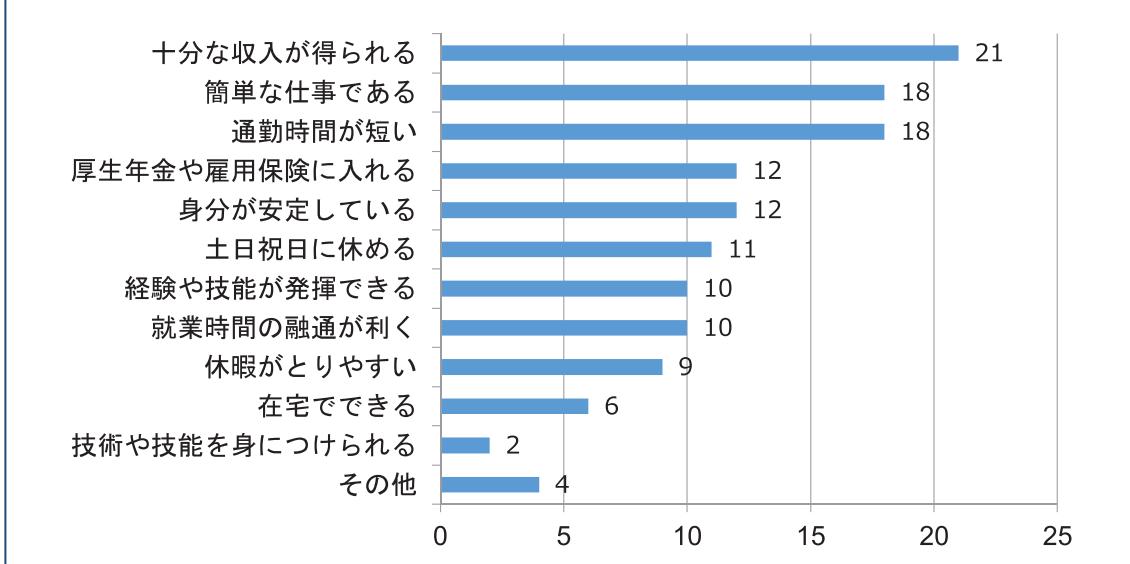


「2. 自分の課題（健康状態や離婚調停等）が解決したら」と「4. 条件に合う仕事が見つかったら」と回答した人がそれぞれ6件（38%）となっており最も多くなっている。

## オ. 働く場合に重視すること

問2. 働く場合に重視することはどれですか。主なものを3つまで選んでください。

図表4.9 就労に関して重視すること



---

「3. 十分な収入が得られる」が 21 件と最も多く、次に「8. 簡単な仕事である」と「4. 通勤時間が短い」が 18 件と続いている。

内閣府『国民生活に関する世論調査』平成 26 年度版によると、「理想的な仕事とは?」に対する回答は、「自分にとって楽しい仕事」61.4%、「収入が安定している仕事」60.6%、「自分の専門知識や能力が活かせる仕事」41.3%、「健康を損なう心配がない仕事」32.9%、「世の中のためになる仕事」30.0%等の順であった。一概に比較することはできないが、安定した収入・十分な収入がいずれも上位にあり、この点は一致しよう。一方で『世論調査』では「楽しい仕事」、「世の中のためになる仕事」という感覚が重視されているのに対し、本調査では、通勤時間、簡易な職務内容、就業時間の融通性といった現実的な就業条件が比較的多い。

---

### 【就労状況の概要】

---

上記問 1 から問 2 を踏まえ、就労状況の実態をまとめれば、以下のようになろう。

現在就労していない者につき、少なくとも約半数の者が就労の意思をもっている。しかし、健康問題、家族間トラブル、あるいは年齢的制限によって現在就労できていない状況にある。

また、現在就労している場合を含め、働く場合に重視するのは、経済的自立が可能な収入、簡易な仕事内容、短い通勤時間、雇用保険を含む安定的身分、調整可能な就業時間が多い。これら雇用条件に関する項目が多い点については、高齢期における自らの健康や母子家庭における育児・家事との関連がうかがえよう。

---

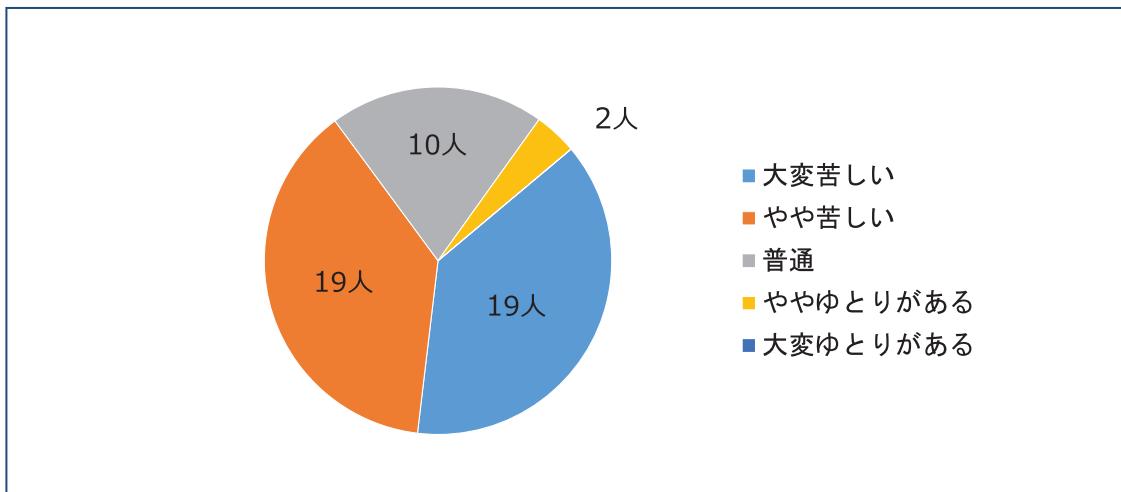
## (3) 経済状況に関する調査

---

### ア. 現在の経済状況（暮らし向き）

問 1. 現在のあなたの暮らし向きについておたずねします。もっともあてはまるものに 1 つ ○をつけてください。

図表50 対象者の生活状況



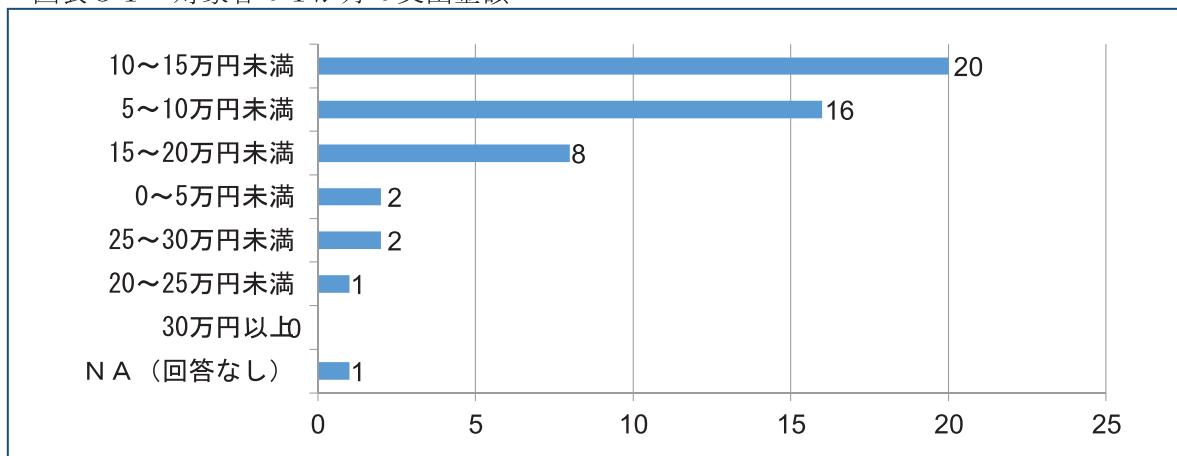
現在の暮らし向きについては「1. 大変苦しい」と「2. やや苦しい」との回答が最も多く、それぞれに 19 人となっている。全体の 76% が現在の暮らし向きに苦しさを感じている。

厚生労働省『国民生活基礎調査』平成 25 年版では、「大変苦しい」、「やや苦しい」を合わせると、全世帯 59.9%、高齢者世帯 54.3%、児童のいる世帯 65.9% である。対する本調査結果 (76%) は、いずれの構成割合も超えており、生活が苦しいと感じている世帯が極めて多いことがうかがえる。

#### イ. 先月の支出総金額と家計簿

問2. 先月（X月）の世帯全員の生活にかかった費用（支出）の総金額を記入してください。金額が千円未満の場合は切り捨ててください。また、先月、家計簿をつけていたかどうかについて、「はい」か「いいえ」のどちらかに○をつけてください。

図表51 対象者の1か月の支出金額



先月の世帯全員にかかった費用（支出）は、「10万円～15万円未満」が最も多く（40%）、また15万円未満が全体の76%を占めている。

総務省『家計調査年報』平成25年版での月平均支出額では、「総世帯」251,576円、「単身のみ世帯」でも160,776円となっており、上記結果は、いずれの世帯の平均をも下回つており、「総世帯」からすれば約10万円も少ない。こうした支出額の実態が、先述の生活意識に反映していると捉えることができよう。

図表5.2 対象者の家計管理状況

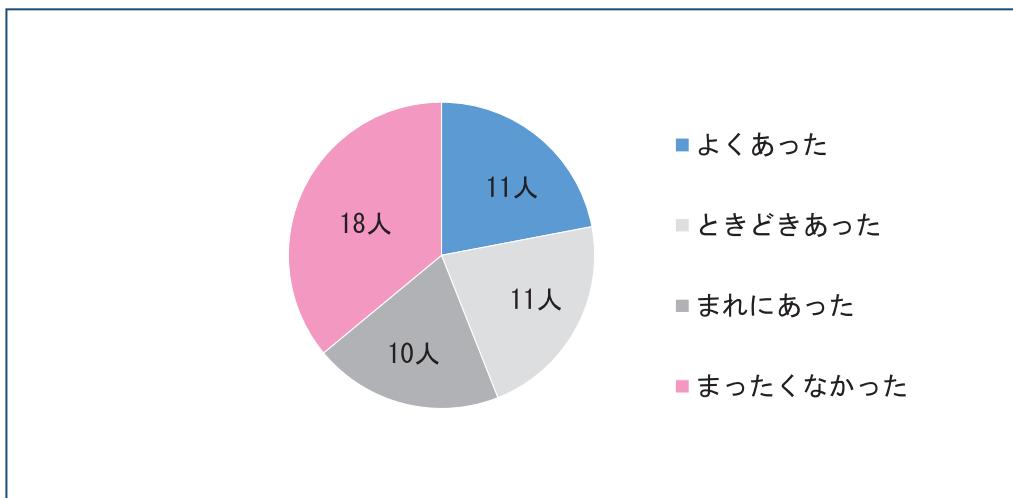
	人数	割合
はい(家計簿をつけている)	10	20%
いいえ	40	80%
合 計	50	100%

先月、家計簿をつけているのは10人（20%）であり、40人（80%）は家計簿をつけていない。

#### ウ. 過去1年間に、必要とする食料品が買えないことがあったか

問3.あなたの世帯では、過去1年の間に、お金が足りなくて、必要とする食料が買えないことがありましたか。ただし、嗜好品（お酒やたばこ等）は含みません。あてはまるものに○をつけてください。

図表5.3 食料品の購入が困難であったこと



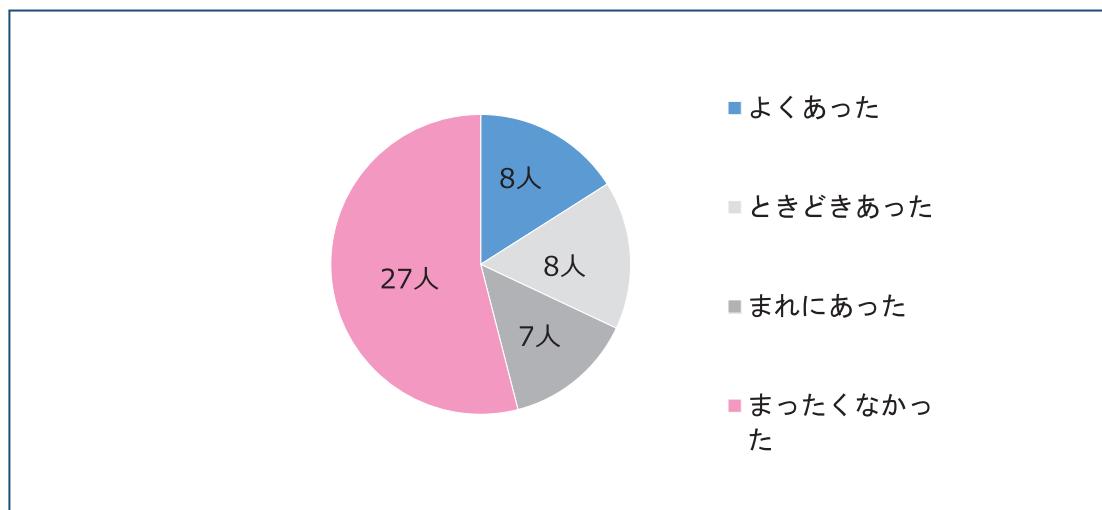
過去1年の間に、お金が足りなくて、必要とする食料が買えないことが「1.よくあった」と「2.ときどきあった」と回答した人がそれぞれ11人（22%）、「3.まれにあった」と回答

した人は 10 人（20%）となっている。必要とする食糧を買えないことを経験した人は全体の 64% に上っている。

#### エ. 過去 1 年間に、必要とする衣類が買えないことがあったか

問 4. あなたの世帯では、過去 1 年の間に、お金が足りなくて、必要とする衣類が買えないことがありましたか。ただし、高価な衣服や貴金属・宝飾品は含みません。あてはまるものに 1 つ○をつけてください。

図表 5 4 衣類の購入が困難であったこと

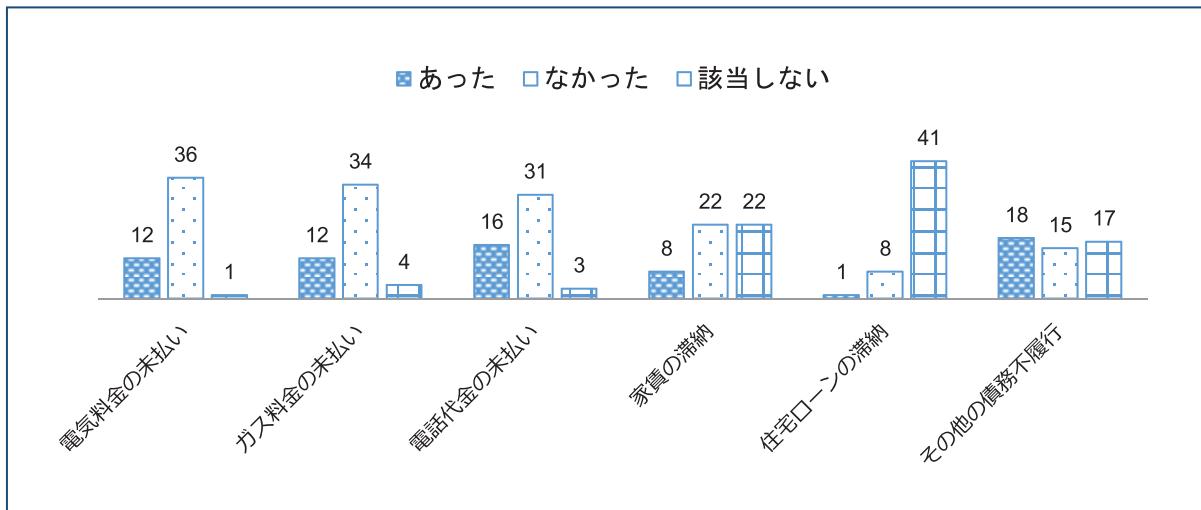


過去 1 年の間に、お金が足りなくて、必要とする衣類が買えないことが「1. よくあった」と「2. ときどきあった」と回答した人がそれぞれ 8 人（32%）、「3. まれにあった」と回答した人は 7 人（14%）となっている。必要とする衣類を買えないことを経験した人は全体の 46% であった。

#### オ. 過去 1 年間に、公共料金等の未払い、債務の滞納があったか

問 5. あなたの世帯では、過去 1 年の間に、経済的な理由で料金の未払い、家賃・住宅ローンの滞納、債務（借金）の返済ができないことがありましたか。（1）から（6）のサービスについて「あった」、「なかった」、「該当しない」のどれかあてはまるものに 1 つ○をつけてください。

図表 5 5 家賃・光熱費等の支払いが困難であったこと



料金の未払い、家賃・住宅ローンの滞納、債務（借金）の返済ができないことで最も多いのは「3. 電話代金の未払い」16件であり、「1. 電気料金の支払い」、「2. ガス料金の支払い」が12件で続いている。

#### 【経済状況の概要】

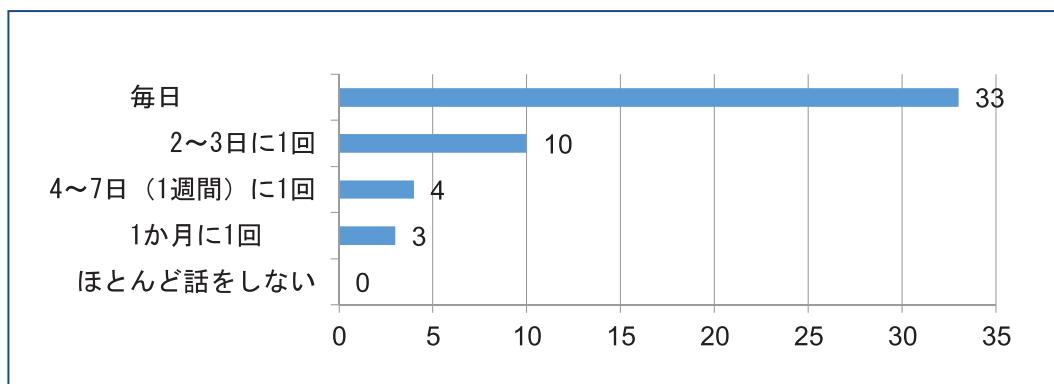
支出月額は、全国平均額（251,576円）を大きく下回っており、約80%の世帯が15万円未満であった。そのため、生活に必要な被服費、健康維持に欠かせない食料費、ライフラインである電気・ガス料金を確保できない、あるいは未払いというケースをそれぞれ2割ほど生み出している。また、こうした実態が、生活を「大変苦しい」、「やや苦しい」とする意識をもたらしている。

#### (4) 社会関係に関する調査

##### ア. あいさつ程度の会話や世間話の頻度

問 1. あなたは普段どの程度、人（家族を含みます）とあいさつ程度の会話や世間話をしますか（電話での会話も含みます）。あてはまるものに1つ○をつけてください。

図表 5 6 会話の頻度

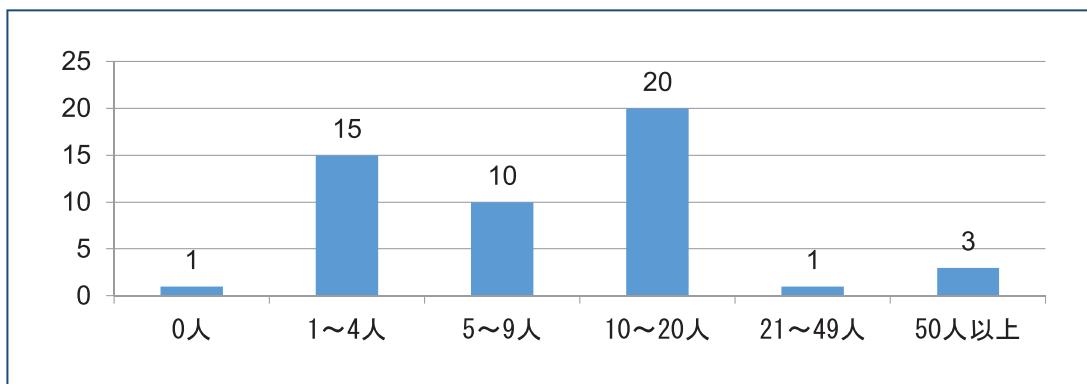


あいさつ程度の会話や世間話をするのは「1. 毎日」と回答された人が最も多く、33人(66%)となっており、次いで「2. 2~3日に1回」が10人(20%)となっている。「5. 1か月に1回」と回答した人も3人(6%)みられた。

#### イ. 会話人数

問 2. あなたがここ1か月間に直接話した（電話での会話も含みます）人（家族を含みます）は何人いましたか。あてはまるものに1つ○をつけてください。

図表 5 7 1か月の会話の頻度

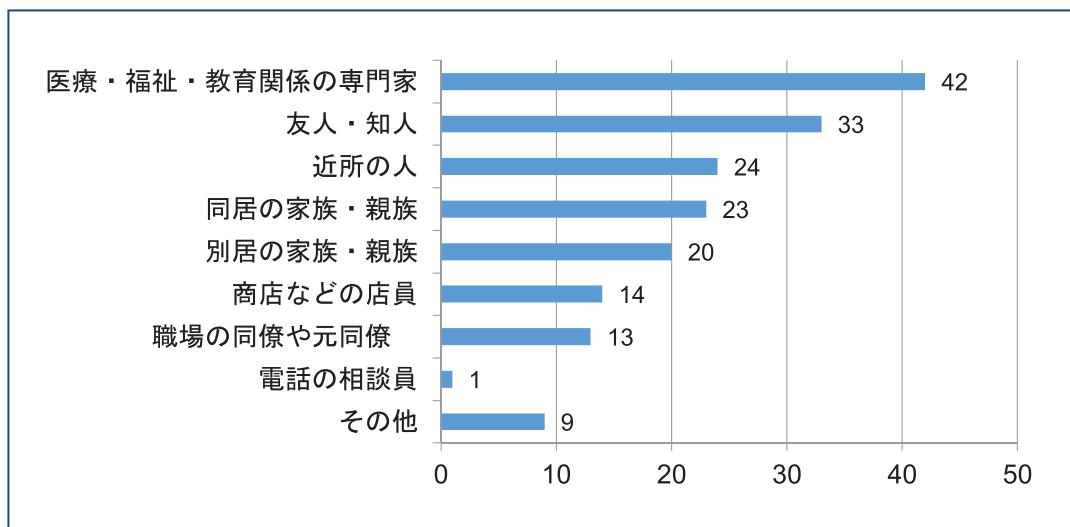


1か月間に直接話した人数は「4. 10~20人」が最も多く20人(40%)で、次いで「2. 1~4人」が15人(30%)となっている。

#### ウ. 会話した人との関係

問 2-1. 1人以上と回答した方へ。それはどんな関係の人ですか。あてはまるものにすべて○をつけてください。

図表5 8 会話をした相手



「7. 医療・福祉・教育関係の専門家」の42件が最も多く、次いで「3. 友人・知人」の33件と続いている。

#### エ. 困ったときの相談相手

問 3. あなたは次に挙げる事柄で頼れる人はいますか。それについて、あてはまるものすべてに○をつけてください。

図表5 9 対象者の頼れる人

	(1)健康、介護、育児に関する相談	(2)家族でのトラブルに関する相談	(3)就職・転職に関する相談	(4)いざというときのお金の相談	(5)緊急・災害時の手助け	合計
1. 家族・親族	23	16	11	19	23	92
2. 友人・知人	13	9	11	5	7	45
3. 近所の人	0	1	0	20	7	28
4. 職場の人	0	0	0	0	0	0
5. 医療・福祉・教育機関の専門家	18	12	23	21	7	81
6. その他の人	1	1	1	0	1	4
7. 頼れる人がいない	2	1	2	6	9	20
8. そのことでは人に頼らない	6	14	8	6	2	36

困ったときの相談相手として頼る人では、「1. 家族・親族」92件、「5. 医療・福祉・教育機関の専門家」81件、「2. 友人・知人」45件の順となっている。

課題別にみると、「(1)健康、介護、育児に関する相談」、「(2)家庭内のトラブルに関する相談」では、「1.家族・親族」が、「(3)就職・転職など仕事に関する相談」、「(4)いざというときのお金の援助」では「5.医療・福祉・教育機関の専門家」が最も多かった。しかし、「(1)健康、介護、育児に関する相談」、「(2)家庭内のトラブルに関する相談」においても、「5.医療・福祉・教育機関の専門家」が2位となっており、利用者にとって重要な存在となっていることがわかる。

### 【社会関係の概要】

あいさつ程度の会話や世間話の頻度では、「1.毎日」(66%)、「2.2~3日に1回」(20%)となっており、利用者は決して社会的孤立状態にはないことがうかがえる。また、その相手は、「7.医療・福祉・教育機関の専門家」、「3.友人・知人」が上位を占めている。さらに頼れる存在として「1.家族・親族」、「5.医療・福祉・教育機関の専門家」が多かった。

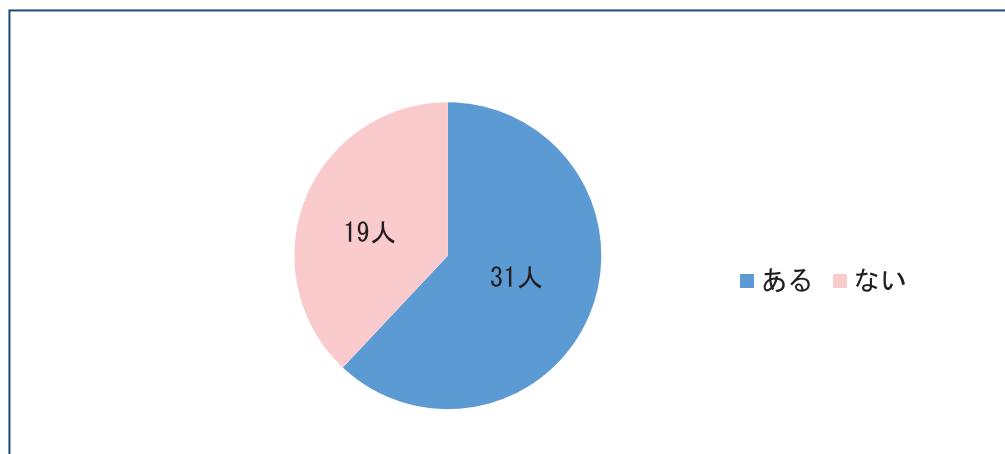
以上より、利用者における社会関係は、「医療・福祉・教育機関の専門家」、「友人・知人」、「家族・親族」を核として構成されているといえよう。とりわけ、「専門家」は、日常的な会話から就職面・金銭面での相談相手として、重要なキーパーソンになっていることが分かる。

## (5) 健康状態に関する調査

### ア. ここ1か月、体の具合の悪いところの有無

問1.あなたは、ここ1か月、病気やけがなどで体の具合の悪いところ（自覚症状）がありましたか。

図表60 直近1か月の健康状態



ここ 1 か月、病気やけがなどで体の具合の悪いところ（自覚症状）が「ある」と回答した人は 31 人（62%）となっている。

厚生労働省『国民生活基礎調査』平成 25 年版での「有訴者率」（人口千対）は、総数で 312.4、また 65 歳以上 466.1、75 歳以上でも 525.6 である。これらより、利用者には、何らかの自覚症状を有する者が比較的多いことがうかがえる。

#### イ. 体の具合の悪いところの症状、最も気になる症状

問 1-1. それは、どのような症状ですか。あてはまるすべての症状名の番号に○をつけてください。その中で最も気になる症状の番号を記入欄へ記入し、問 1-2 へ進んでください。

図表 6 1 対象者の症状

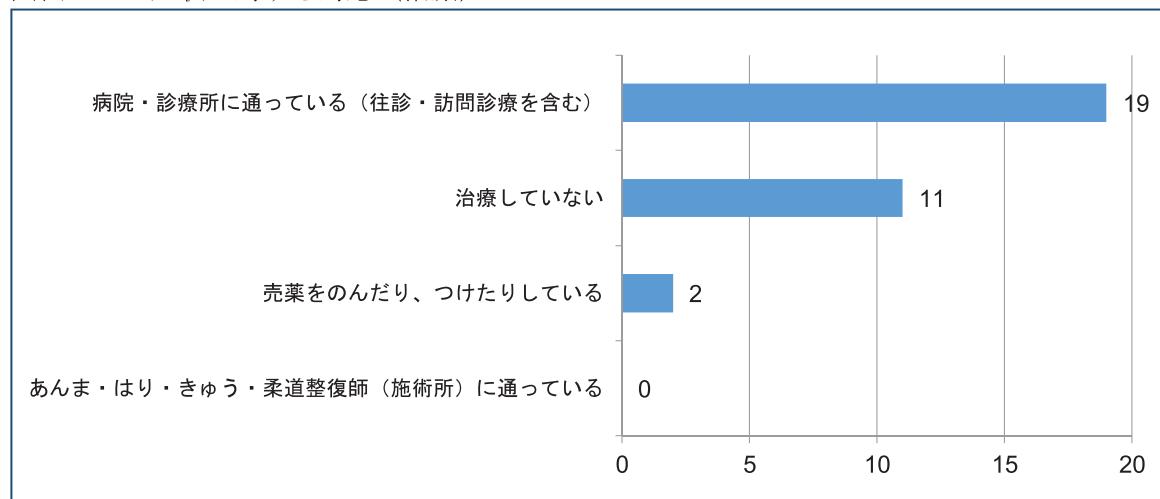
		あてはまるすべての症状		最も気になる症状	
		回答数	割合	回答数	割合
1	熱がある	13	6%	1	3%
2	体がだるい	18	8%	1	3%
3	眠れない	16	7%	3	9%
4	いらいらしやすい	8	3%	1	3%
5	もの忘れする	10	4%	1	3%
6	頭痛	12	5%	1	3%
7	めまい	12	5%	3	9%
8	物を見づらい	5	2%	0	0%
9	耳鳴りがする	13	6%	3	9%
10	きこえにくい	8	3%	1	3%
11	動悸・息切れ・ぜいぜいする	4	2%	0	0%
12	胸に痛みがある	3	1%	0	0%
13	せきたんが出る	8	3%	1	3%
14	鼻がつまる・鼻汁ができる	6	3%	0	0%
15	下痢・便秘	9	4%	2	6%
16	食欲不振	4	2%	0	0%
17	腹痛・胃痛	5	2%	1	3%
18	痔による痛み・出血	1	0%	0	0%
19	歯痛・歯ぐきの腫れ・出血	8	3%	0	0%
20	嘔みにくい	6	3%	0	0%
21	発疹・じんましん・できもの	2	1%	1	3%
22	かゆみ・湿疹等	3	1%	0	0%
23	肩こり・腰痛	14	6%	2	6%
24	手足の関節が痛い、動きが悪い	9	4%	3	9%
25	手足が冷える・しびれる	10	4%	2	6%
26	足がむくむ	2	1%	0	0%
27	尿が出にくい・痛みがある	2	1%	0	0%
28	頻尿	6	3%	0	0%
29	尿失禁	4	2%	0	0%
30	月経不順・月経痛	0	0%	0	0%
31	骨折・ねんぎ・脱臼	2	1%	0	0%
32	切り傷・やけどなどのけが	4	2%	0	0%
33	その他	7	3%	5	16%
合 計		234	100%	32	100%

症状として最も多かったのは、「2. 体がだるい」18件(8%)、次いで「3. 眠れない」16件(7%)、「23. 肩こり・腰痛」14件(6%)と続いている。最も気になる症状としては、「3. 眠れない」、「7. めまい」、「9. 耳鳴りがする」、「24. 手足の関節が痛い、動きが悪い」がそれぞれ3件(9%)と多かった。

#### ウ. 最も気になる症状に対する治療

問 1-2. 最も気になる症状に対して、なんらかの治療をしましたか。あてはまるすべてに○をつけてください。

図表6 2 症状に対する対応（治療）



「1. 病院・診療所に通っている（往診・訪問診療を含む）」が最も多く19件(59%)となっている一方で、「5. 治療していない」が11件(34%)に上っている。

厚生労働省『国民生活基礎調査』平成25年版での「通院者率」（人口千対）は、総数で378.3であった。この点からすれば、問1の有訴者と同様、通院者率も高いといえよう。